

【熊本県文化協会賞】

「豊かさ」

熊本県立芦北高等学校 1年 永松 優奈

皆さんは「豊かさ」について考えたことはありますか。「豊かさ」と言ってもとても曖昧。私たちは豊かであることを求めて生活しているはずなのに、「あなたにとっての豊かさとは何ですか？」と聞かれても、その答えを言葉にできる人は多くないと思います。

去年の夏、私たちが住む町を豪雨が襲いました。それまでは、当たり前のように学校に通い、ご飯を食べ、お風呂に入って寝る。毎日変わらない、平凡な生活。7月4日の朝、目を覚ますと変わり果てた辺り一面に、ただただ家族全員で呆然としました。私の町では被害の差がとても大きく、何の被害もなかったところ、その一方で、山の土砂が家に崩れてきたり、水に浸かったり、ニュースになるような甚大な被害を受けたところもあります。私の家は地形が周りよりも低く、1階部分が浸水し、家具も家電も何もかも廃棄することになりました。学校は、週明けの火曜日から再開。登校用の靴も流され、唯一残っていた靴を履いて行きました。それから1カ月は学校、家に帰って来たら片づけをするという忙しい日々を送りました。泥を含んだ物は運ぶのが大変で、心が折れそうになりましたが、親せきや知り合いが手伝いに来てくれ、想像していたよりも早く片付けました。車も水に浸かり、買い物にも行けませんでした。親せきがご飯や必要なものを持って来てくれたので、とても助かりました。

家で勉強する場所もない中、期末テストが近づきました。いとこの家に行って最低限の提出物を終わらせ、とりあえず勉強。「もうしんどい！！」と、精神的にも体力的にも疲れ、何もかも嫌になり、友人と会話して笑うこともなくなりました。そんな時、友人が「体育館に遊びに行こう！」「一緒に帰ろう！」と気遣い、声を掛けてくれたので、しだいに笑顔が戻ってきました。今までは「勉強したくない」「学校に行きたくない」と思うことも多かったですが、学校に行って勉強できること、友人に会えることが当たり前ではないのだと実感しました。そして、今まで自分が「平凡」だと思っていた日常が、とても「貴重」で「豊か」な日々に見えるようになりました。

私は今回の豪雨災害で、たくさんの人たちに支えられてきました。その感謝の気持ちを忘れず、今度は私自身がボランティア活動に参加し、地域に貢献したいと考えています。また、私は芦北高校林業科に在籍し、平板測量や土壌について専門的な知識を学んでいます。そこで、さまざまな資格を取得し、高校3年間で学んだことを活かして、家族のため地域のため、人の役に立つ仕事に就きたいと考えています。